



肩こり

IT企業でマネジャーの肩書きを持つ彼は、自他共に認める熱血サラリーマン。仕事を離れた日常会話でも英単語を多用する、こ

それでも、人に頼まれることを意気に感じるところがあり、マンションの熱血

といった彼は今、ひそかに整形外科に通院中。彼の思い違いが“病気”を悪化させていたのだ。

肩こりなんて病気じゃない」と考へている人は多い。Uさん(44)もその一人。「ビジネスマンにとって肩こりは勲章だ」なんて言つて、Uさんは勤務地にとつて肩こりは勲章だ



イラスト・メソポ田宮文明

首に負担のかかる姿勢続くと悪化 上腕、果ては指にも痛みとしひれ

自治会長や、地元の少年野球の熱血コーチなど、会社以外での熱い肩書も多い。当然彼には“休み”はない。

肩こりは以前からあったが、2年ほど前から症状が悪化し始める。肩から首にかけて、こりというより痛みに近い状態が出るようになったのだ。儀礼的に心配してくれる部下のO.S.には、「ストレスから来る肩こり」と説明し、肩をもま

せようとして嫌われた。照れ隠しに「肩こりで死んだしかしこにきて彼の症状は激化する。首から上腕、果ては指にも痛みとしひれが出て、夜も眠れなくなつた。あわてて病院に行き、そこで下されたのは「頸椎症性神経根症」という診断だった。

「腰部椎間板ヘルニアによる下肢痛は“坐骨神経痛”として知られているが、これと似た状態が頸椎で起きるのが頸椎症性神経根症。頸椎にできた骨棘が神経を圧迫して肩や上肢に神経痛が出る病気です」と

語るのは、東京・板橋区にある常盤台らいおん整形外科の小崎直人院長。

パソコンワークや車の運

転、低すぎる枕で寝るなど、首に負担のかかる姿勢が続くと症状悪化のリスクを高めるこの疾患。「ひどい肩こり」と思って放置し、悪化させる人も少なくない。Uさんはまさにその典型例だ。

「安静と内外用薬の服用。あわせて牽引などのリハビリを行えば1~2カ月で改善します」と小崎医師。

結局“立派な病気”だったのに、周囲に哀れんでもらえず人知れず病院通いをするUさん。そのストレスが次の病気を生まなければいいのだが…。